

どんくさい努力

【兵庫県・若生知子】

★
一般部門
入選

長い脳外科手術を終え、14歳の娘はHCU(ハイケアユニット)に戻ってきた。大きくなった娘は、ベッドの上で赤ちゃんのようになつていった。水差しで水を飲ませて体を拭きオムツを替える。赤ちゃんの時とは違い大きな体が重い。何をしてもし泣けてくる。そんな時ナースコールをすると看護師のUさんは、ニコニコ顔ですぐに来て何でも解決してくれた。動作は無駄なく丁寧、優しさと責任感のある横顔だった。

私は初めふさぎ込み、Uさんに「なぜうちの子がこんなことに」と答えない質問をした。Uさんは微笑むだけ。「良くなりますよ」とか「お母さんのせいじゃない」とか何故言ってくれないのだろう、優しい言葉がほしいのにと私は大いに不満だった。

その後、一般病棟に移り、退院前のある日、偶然Uさんに出会った。「ゆきちゃん元気になりましたね。リハビリも頑張っていますね」。娘の名前を覚えていたなんて、私は正直驚いた。するとUさんは続けて言った。「退院したらどんどん

元の生活に戻しましょう。大丈夫。けれどこれから彼女が大人になる間、時にはうまく物事が進まないこともあるでしょう。そのとき彼女はそれを病気のせいにするかもしれない。もししたらあなたの手術は成功で何も心配はなし。リハビリを頑張ったみたいにとんくさい努力をして大きくなりなさいと伝えて下さい」

その後、娘は退院し、元の学校生活に戻っていった。入院の間に勉強は遅れ、後頭部の大きな傷は思春期の彼女を悲しませた。しかし、その時々娘と話していたのはUさんの日々の姿と言葉だった。私に、甘えていないで子どものために前を見なさいと教えてくれた言葉だ。自分の努力不足を病気のせいにしてはいけない。将来を見据えてどんくさい努力をせよ。この強いコンセプトは私たち母娘を常に励まし、引つ張ってくれた。

今日、一浪の末、娘は看護大学を受験している。20歳まであと少し。なりたい自分になるためにどんくさい努力を続けている。